

CAPDやAPDについてのQ&A

? | 腹膜炎が起こるとどうなりますか？ またどうすれば良いのでしょうか？

お腹に“ばい菌”が入ると腹膜炎が起こります。典型的な症状としては、まずお腹が張った感じがし、排液が濁っています。続いて腹痛や発熱が現れます。

こんな症状が現れたら、直ぐに病院に連絡して来院する必要があります。

通常入院治療が必要になりますが、先に述べたように腸が破れて起こる腹膜炎と違い、抗生物質の投与などで1週間以内に治る事が大部分です。

しかしカテーテルに“ばい菌”が着いていたり、抗生物質が効きにくい“ばい菌”が原因である場合には治りにくい事もあります。また患者さんによっては腹膜炎を繰り返す場合もあり、CAPDを中止して血液透析に変更する場合があります。

? | その他の副作用と解決策は？

先にも述べましたが、お腹に常に透析液を入れていると、腹膜が徐々に傷んでいきます。従来の透析液では、8-10年が限度で、これ以上継続すると、食事が出来ず、命にかかわるほど怖い腹膜の傷み（被嚢性腹膜硬化症；略語EPS）が生じる危険が出てきます。最近はEPSが起こるのを予知する方法がほぼ確立されており、主治医から“そろそろCAPDを止めますか”と勧められたら、こだわらずに従って下さい。“CAPDが続けられなくなれば血液透析に変われば良いのだ”と考えて下さい。

最近は腹膜に優しい透析液が次々と開発されつつあります。このような透析液が有効かどうかは10年経たないと実証されないので、現時点では何とも言えませんが、短期的にも良い証拠が出されていますから、多分長期的にも良いのではないかと思います。

またお腹に常に透析液を入れてるのは良くないという事から、最近患者さんのライフスタイルも考えて、CAPDと血液透析を併用する方法も行われています。例えば月水金は血液透析、火木土はCAPDを行う方法などです。毎日透析が行われていますから、食事の制限も少なく、腹膜の傷みも少ない利点があります。興味のある方は主治医に相談してみてください。